

えん罪・仙台北陵クリニック事件 千葉刑務所 守大助さん面会記



11月16日（金）ご両親

午後から面会、夫は風邪気味で声が全く出なくなつたので風邪をうつしては、との配慮で面会を諦めて私だけで面会、入ってくるなり心配顔、訳を話して納得。世間話は後にして、先日阿部弁護士から届いた補充書など特に興味を示していた。ミトコンドリア病が2009年に難病認定され2016年には初例として奇しくもミトコンドリア病を否定していた仙台市立病院で「初回けいれん発作でミトコンドリア病診断に至った1例」患者がミトコンドリア病の認定学会に報告された。これは殺人未遂事件の被害者とされた11歳女兒の症状例と年齢・性別・身体的特徴まで酷似し、よく読まない同一人と疑うほどであったと話しておりました。

11歳女兒の急変＝ミトコンドリア病＝病名判明＝大助関与せずこの件一例だけでも残念でなりません。2016年ミトコンドリア病を診断した医師13名が2001年当時在籍していたか不明である。胸中はいかがなものであるか計り知れない。

翌日、千葉の守る会の第8回総会に参加して帰宅しました



千葉の支援する会での大助さんの母祐子さん

えん罪・仙台北陵クリニック事件とは

守大助さん(当時29歳)が当時勤務していた医療法人北陵クリニックに於いて患者5人の点滴に筋弛緩剤を混入したとして2001年に逮捕。仙台地裁・高裁・最高裁で「無期懲役」が2008年2月に確定。同年7月から千葉刑務所に服役中。大助さんには動機がなく、患者の容体急変は筋弛緩剤の薬理効果と矛盾しており、科学鑑定でも否定されている。試料は鑑定時に全量消費・廃棄され、再鑑定ができない。

2012年2月10日仙台地裁に再審申立をし、2014年3月25日に再審棄却される。仙台高裁に即時抗告を行が2018年2月28日棄却される。3月5日最高裁に特別抗告を行う。

11月14日（水）

「急に寒くなったね」、大助さんの優しい笑み。たった2週間しか空いていないのに私自身も厚目の服装になってる事に気付く。朝夕と日が短くなるのも早くなり、お日様を見ない日もあると聞いて、担当の仕事の関係とはいえ少くくは日光浴させてくれても…とと思ってしまいました。お互いのとりとめのない話に笑い合い、今のペット事情に驚いてました。犬用のプールや温泉があり、犬用の救命胴衣も売ってる話をしたら「犬って泳げるんじゃないの？」とビックリしてました。「俺も温泉入りたい」って苦笑いしてました。手足を伸ばしてゆっくり温泉入りたいんだろうなあ…と思うと辛いのは大助さんなのに私まで哀しくなっていました。一緒に温泉に行ける日が1日も早く来る事を願っています。

佐々木直美

激励先〒264-8585 千葉市若葉区貝塚町192 守大助さん宛 2018年 124号

● 面会日程を1月は上旬にメール等でお知らせします。救援会神奈川県本部に問合せ。

□面会申込み/□ 国民救援会神奈川県本部 Tel050-3310-1368 fax045-663-7953。

E mail-kyuenkai-k1@clock.ocn.ne.jp 発行/国民救援会千葉県本部 Tel043-239-7730 fax043-239-7740

E・mail kyuen-chiba@kc4.so-net.ne.jp

11月26日（月）茨城守る会

午後1時半頃から守大助さんと面会。顔を合わせた時、大助さんの顔があまりにも青白いので、調理作業従事がよほどきついのかと思い、「仕事がつきついですか」が会話の口火となった。1000人分の食事づくりの実情を説明しつつも、「2年目に入ったので、2年以上の実務経験を積むと調理師免許を取得する調理師試験の受験資格が近いうちにとれるんです」と嬉しそうに話された。が、「今のままで（服役中）は受験できない」といわれ、社会復帰の準備の一環として資格取得の機会を保障しないのはひどすぎる、受験の便宜を図ることが教育刑としての刑罰にふさわしいのでは、との思いが頭をよぎった。国民救援会が死刑廃止の声を上げ関係団体と共同しているけれど、服役者の処遇改善、権利取得にももっと尽力しなければならないと痛感させられた。今回、大助さんとの面会から示唆を受けたことの一つでした。

もう一つは、弁護団が11月8日付けで最高裁に提出した特別抗告補充意見書について、大助さんが関心をもったところを指摘し、病態論が論点として再浮上する可能性について示唆されたことです。補充意見書の「第5 ミトコンドリア病認定基準の確実例に該当」（38頁）の記述で、「3 10歳女児の症例報告との比較検討」と題して、「弁護人が入手した仙台市立病院の症例報告を紹介し、本件のA子の事例との比較対照を試みることにする。事案は「初回けいれん発作でミトコンドリア病の診断に至った1例」と題するものであり、出典が「仙台市立病院医誌」でありインターネットに公開されているものである。」として、事件被害者A子が筋弛緩剤中毒でなくミトコンドリア病に罹っていたことを立証しているものです。新しい知見であり立証力もつよいと思えます。

37頁の分厚い意見書を精読され、弁護団の提起に触発されて大助さん自身も年明けには最高裁に提出する「身上書」を準備していると元気よく述べられ、「お互いに頑張りましょう」と挨拶して面会室から離れた。

田村武夫さん



田村さんと森谷さんご夫妻



トリトマの花

11月29日（木）玉田典彦さん、ミタテさん

やっと面会室に入って椅子に掛けるとすぐにドアが開いた。元気な大助さんが入ってきた。ああやっと会えた、1か月ぶりなのに、やっとやっと会えたという思い、来月の休みの事、差し入れの要件を話し合い、仕事はどんな具合なの？きつい？いじめられていない？と私の胸のつかえを吐き出すように話してしまっただが、彼はいつもニコニコ「やってませんから元気です」と頑張ることはいっぱいある。支度の桁違いの労働内容にびっくりしながら、調理したものがみんなの口に入る時、少しでも美味しくと努力している話に大変だと連発して聞いていた。あっという間の30分、早く一緒に刺身を食べよう。生ものが食べたいねと彼。そうか中では生物はダメかと改めて思う。元気で頑張ろうねとガラスを強く押して別れた。差し入れはタオルピンク、チリ紙、週刊誌、植物石鹸



千葉・本埜の沼：白鳥飛来地